

四季報

設計協会青年部活動NEWS

2004・03（春号）

発行 / (社) 福島県建築設計協会 東北支部 青年部 情報委員会

所在地 / 〒980 - 8043 福島市中町4 - 20 みんなビル

電話 (024)521 - 4033 FAX (024)521 - 5087



寄稿
特集

『建築住宅センターの展望』

四季報では、寄稿特集として建築関連行政の皆様より貴重なご意見をいただいておりますが、行政改革により誕生し、官民連携や諸業務効率化において重要な役割を担う、建築住宅センターの荒川審査課長に所感をよせていただきました。

ふくしま建築住宅センターの案内

“ どうもありがとうございます ” 言葉が自然と出るようになった感じがします。行政改革の一環として建築行政の民間開放から誕生した職場です。建築基準法のもとで住宅関係の建築確認検査を主な仕事としています。とは言っても一民間会社であり経営が破綻すれば倒産は当然であります。例え当センターが倒産したとしてもご利用しているお客様方が心配するには及びません。なぜなら各地域には行政庁が厳然として存在するし、全国展開している同業の民間会社が間髪を入れず参入し、業務は続けられるでしょう。

そこで民間の同業者との生き残りをかけた戦いが水面下では行われております。当センターでは毎週経営戦略会議を開き迅速かつ柔軟な方針・対策が決定され実施に移されています。例えば昨年の年度末の営業日延長、今年2月からのお客様への還元としてポイントカードの導入、より広いご意見を請うためのご意見箱の設置などいずれもお客様の立場になって行動する姿勢が生き残れる道ではないかと考えるようになってきました。それが文頭のことばの意味です。



より信頼されるセンターとなるために

前段では経営面のことを、下段では業務面のことを紹介します。建築確認は主要業務であります。建築界にとってはほんの一部でしかないということを私共職員は忘れてはならないと思います。建築という行為がなされるまでにはさまざまな問題が立ちだかっている、特に予算の裏付けや発注受注者の了解そして社会的な認知としての基準法の確認です。どれひとつ欠けても着工にはなりません。そこで法的な確認を専門とする当センターは、一年間に東北事務所で約2000件を扱わせさせていただいており、あまり当てにはならないかも知れませんが、件数からいっても「だめ元」で相談に乗れるセンターであるよう務めて参ります。また、解決策が見つからない場合は、いっしょに考えて処理できるセンターでありたいと思います。建築確認上の枝葉末節はさておき主旨を捉えるようお互い努力しようではありませんか。必ず解決策はあると信じます。もうひとつ大きな業務に建築物の性能を評価する業務があります。人間ドックのようなもので 構造・火災・劣化から 音・高齢者への配慮まで9項目について評価する品確法によるもので、人に向き不向きがあるように、建築物を客観的に特徴付け建主の要望程度を知りうる手法として、また後日のトラブル回避のため、建築士であるためには是非知っておくべきだと思います。人に個性があるように建物にも個性を出し、調和のとれた社会にあって調和のとれたまちづくりに志のある建築士なら貢献しようではありませんか。

のりこ 矩を踏えない建築をめざして。

平成15年度東北支部青年部3月例会

平成16年3月19日（金）に設計協会会議室にて3月例会が開催されました。政策委員会からは「福島市街並み調査報告」の発表があり、研修委員会が担当した「施工現場における安全管理について」では青柳工業（株）の佐藤市男氏をお招きし講演していただきました。

政策委員会が取り組んできた、ふくしま建物たんさくMAPの完成間近である報告や、施工現場での安全管理体制を詳しくご説明いただいた講演内容は、今年度最後の例会にふさわしい充実したものとなりました。

会報本号、次項にて内容の詳細を報告させていただきます。





ふくしま建物たんさくマップ完成間近

担当委員会 政策委員会

設計協会青年部では、先行きの見えない経済情勢や中心市街地空洞化等の問題に対応すべく、他団体との交流や親睦を深めながら、数多くの事業を展開して参りました。活動内容のひとつとして、自分たちが住む街並みを十分理解し、すばらしい歴史や景観を広く発信するための準備を進めておりましたので、詳細を報告いたします。

告

福島には、城下町として発展した歴史があります。

みなさん、知っていましたか。現在の県庁の所にお城があって、板倉氏が長い間藩主としていらっしゃいました。実は、江戸時代の建物がまだ残っているんですよ。びっくりですね。

明治時代には信夫地方の養蚕の出荷の中心地としても発展しました。東北地方に初めて日本銀行の支店が開設されたのが福島だと、みなさん知っていましたか。それほど、養蚕が盛んだったのですね。そのレンガ造りの旧日本銀行福島支店を、約20年前に取り壊し、新しくしました。寂しいですね。福島には明治時代・大正時代の大きな建物はありません。昔の建物を次々と壊してきた街なのですね。

そんな福島にも昔のたたずまいを残す風情のある建物が残っているのを知っていますか。車を降りて細い路地を歩くと、そこには歴史を感じさせる建物が点在しています。

もっと面白い福島を見つける事ができるかもしれないMAPが完成間近です。

活動報告

平成14年度よりふくしま建物たんさくMAPの制作を計画してから2年間、ようやく完成間近になりました。今活動を振り返ってみますと、平成14年6月～11月に福島市内(北は信夫山の麓森合町・東は国道4号線・西は東北本線・北は荒川の範囲)の歴史ある、風情のある建物を2,3名のグループに分かれ調査しました。全員皆晴れ男のようで天候には恵まれました。あまりにも天候に恵まれすぎて、喉がカラカラになりペットボトルのジュース3本飲みながら歩いたことが思い出されます。その時はご苦労様でした。平成14年度に調査した建物をみんなでピックアップし最終的に建主様に了解を得られたのは28件になりました。建主様にお伺いした際に親切に対応していただき快く了承してくださいましてありがとうございました。この場をお借りして御礼を申し上げます。建物の中も写真にして掲載したい建物も多数ありましたが、プライバシーの問題もあり今回は外観のみの掲載になり、落ち着いた雰囲気の内観や飾ってある物をお見せ出来ないのが残念です。建築年代は明治から昭和初期のものが多く、福島市の発展の歴史が感じられる建物ばかりです。中には江戸時代に建てられた建物もあります。まだ福島にも歴史ある建物が残っていたと分かったときには、とても感動しました。また建物の位置を地図で見ると8月に行った福島街ウォーキングで歩いた街道沿いに多く建てられていることが分かります。こうしてみると福島市は江戸時代より城下町として発展してきたと改めて分かると思います。そんなことを考えながらMAPを見て頂けると嬉しいです。MAPの原案はほぼ出来ているのですが最終確認がまだなので、まだお見せできず、総会までには完成すると思いますので楽しみに待っててください。

政策委員会委員長 大内一弘

施工現場における安全管理について

担当委員会 研修委員会

建築物の需要が発生し、使用開始できるまでの間には様々な過程がありますが、施工現場の良否に重大な影響を及ぼす、安全管理体制について学べる場は少ないのではないのでしょうか。

施工現場に携わる者が知る必要のある知識として、「建設業における死亡災害発生状況」や「災害防止に対する取り組み」について例会内の技術研修を開催いたしました。詳細を報告いたします。

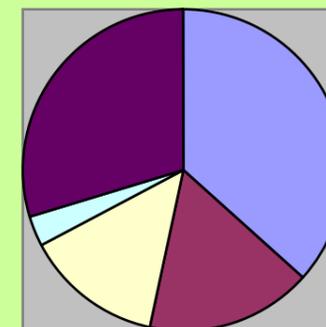
平成14年の建設業における死亡災害の発生状況

1. 全産業に占める割合

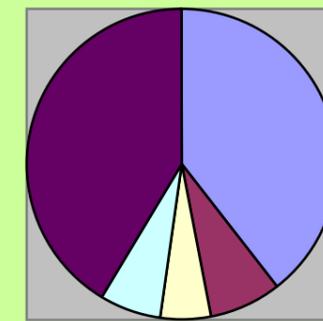
全死亡者数 1,658 人に対し、建設業が占める割合は 607 人 (36.6%)

2. 工事の種類別・災害の種類別発生状況

建設業全体 607 人に対し、墜落が占める割合は 239 人 (39.4%)



■ 建設業
■ 製造業
□ 陸上運送
□ 林業
■ その他



■ 墜落
■ 飛来・落下
□ 倒壊
□ 土砂崩壊
■ その他

災害防止に対する取り組み

1) 労働災害が発生した場合の企業責任には四重責任がある。

1. 刑事上の責任 2. 行政上の責任 3. 民事上の責任 4. 社会的責任

2) 安衛法について

労働災害を起こした場合、刑事上の責任として安衛法と刑法上の責任がある。

3) RSTについて

職長教育をする講師を養成する為、東京と大阪に労働省が安全衛生教育センターで5日間講習を受ける。職長はRSTトレーナーにより14時間の職長教育のカリキュラムを受け、職長・安全衛生責任者になる。大手ゼネコンでは、職長教育の資格のない者は現場で職長になれない場合が多くなってきている。

4) 安全施行サイクル運動

安全衛生管理活動に関して、毎日のサイクル・毎週のサイクル・毎月のサイクルが細かく実施されている。

5) 三大災害撲滅運動

三大災害(墜落・転落災害、建設機械・クレーン等災害、崩壊・倒壊災害)について特に注意する。

6) 元片事業者による建設現場安全管理指針

安全衛生管理計画書の作成 施工体制台帳による関係請負人の把握 安全施工サイクルの実施など

7) 木建足場先行工法

木造家屋建方時の墜落事故が多いので、建方時には先行して足場を設置し、墜落災害の防止を図る。

8) 建設業安全衛生マネジメントシステム

安全のISO版です。～P・D・C・Aのサイクルをスパイラル上に展開し安全のレベルアップを図る事。